1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	星伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	人体の構造について広く理解し、医学(解剖学分野)用語に慣れ親しむ
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかけない事
1 1. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 讓兒 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概     要	
1		1年前期の単位取得に向けての概要説明	
2	第10章 運動器系	骨学概論:骨の連結様式・関節構造	
3	第10章 運動器系	骨学各論:上肢骨(上肢帯・上腕骨・前腕骨)	
4	第10章 運動器系	骨学各論:上肢骨(手の骨・上肢の関節)・下肢骨(下肢帯・大腿骨)	
5	第10章 運動器系	骨学各論:下肢骨(膝蓋骨・下腿骨・足の骨)	
6	第10章 運動器系	骨学各論:体幹骨	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第10章 運動器系	骨学各論:体幹骨	
9	第10章 運動器系	骨学各論:頭蓋骨	
10	第10章 運動器系	骨学各論:頭蓋骨	
11	第1章 人体の構成	組織学概論(細胞学概論・組織分類)	
12	第1章 人体の構成	組織学各論(上皮組織)	
13	第1章 人体の構成	組織学各論(筋組織・神経組織)	
14	第1章 人体の構成	組織学各論(結合組織)	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	からだの仕組みⅡ
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	星伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	人体の構造について広く理解し、医学(解剖学分野)用語に慣れ親しむ
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかけない事
1 1. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 讓兒 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概     要	
1		身体の仕組み(解剖学)とは・概論	
2	第10章 運動器系	筋学概論:運動様式	
3	第10章 運動器系	筋学各論:上肢の筋(上肢帯筋・上腕の筋・前腕の筋)	
4	第10章 運動器系	筋学各論:上肢の筋(前腕の筋・手内筋)・下肢の筋(下肢帯筋・大腿の筋)	
5	第10章 運動器系	筋学各論:下肢の筋(大腿の筋・下腿の筋・足部の筋)	
6		筋学各論:体幹の筋(胸腹部の筋)	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第10章 運動器系	筋学各論:体幹の筋 (腰背部の筋)	
9	第10章 運動器系	筋学各論:頭頸部の筋	
10	第6章 生殖器系	発生学とは・発生に関わる用語(排卵・受精・卵割・着床・月経)	
11	第6章 生殖器系	生殖器器官の一部(生殖細胞・減数分裂)	
12	第6章 生殖器系	胚葉(各胚葉の分化)	
13	第6章 生殖器系	胚葉(外胚葉・内胚葉からの分化)	
14	第6章 生殖器系	胚葉(中胚葉からの分化)・胎盤の構造	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	天貝裕地
7. 授業形式	講義 PC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	ねらい 生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。 本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。 到達目標 専門基礎分野の『生理学』の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『生理学』第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『いちばんやさしい生理学』加藤尚志 他著 成美堂出版
13. 推薦参考図書	特になし

	14.講義スケジュール		
回数	単 元	概	
1	イントロダクション	からだの働きを考える・からだを構成する成分	
2	第1章 生理学の基礎	生理機能の特徴 ・ 細胞の構造と機能	
3	第1章 生理学の基礎	細胞の構造と機能 ・ 物質代謝	
4	第1章 生理学の基礎	体液の組成と働き ・ 物質移動	
5	第10章 神 経	ニューロンの構造と働き ・ 神経線維の興奮伝導	
6	第10章 神 経	神経線維の興奮伝導 ・ シナプス伝達	
7	第10章 神 経	中枢神経系の分類と機能	
8	第10章 神 経	反射 ・脊髄 ・ 脳幹 ・ 小脳	
1	統合教育科目I	総復習	
9		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
10	第10章 神 経	視床 ・ 視床下部 ・大脳 ・ 脳脊髄液	
11	第10章 神 経	末梢神経系 • 自律神経系	
12	第11章 筋	骨格筋の構造と働き ・ 筋の収縮の仕組み	
13	第11章 筋	筋のエネルギー供給の仕組み	
14	第11章 筋	心筋と平滑筋	
3	統合教育科目I	総復習	
4	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
⑤	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	健康科学
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	庄司智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	小児から高齢者にいたるまで体や心がどのような変化をしていくのかを学び、各世代のスポーツの楽しみ方や関わり方について理解します。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行ってください。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『体力学』中谷敏昭編 化学同人、『新・スポーツ医学』藤本繁夫ら編 嵯峨野 書院
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト:共通科目 I ・Ⅲ

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概       要	
1	第1回	ガイダンス、健康とは	
2	第2回	スポーツと健康	
3	第3回	体力とは1	
4	第4回	体力とは2	
5	第5回	健康と体力の関係 1	
6	第6回	健康と体力の関係2	
1	統合教育科目I	総復習	
7	第7回	中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第8回	体力テストの方法 1	
9	第9回	体力テストの方法2	
10	第10回	体力の発育発達 1	
11	第11回	体力の発育発達 2	
12	第12回	子供に必要な運動刺激	
13	第13回	幼少年期に必要な運動	
14	第14回	行動を起こす体力の加齢変化	
3	統合教育科目I	総復習	
15	第15回	期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	武本 泰
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体の諸器官の機能、特に血液、循環、呼吸、消化・吸収の基本について習得す る
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くた め、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がける
11. 教科書	生理学,東洋療法学校協会,医歯薬出版
12. 副読本	いちばんやさしい生理学, 南沢 享, 成美堂
13. 推薦参考図書	人体の構造と機能,放送大学教材

	14.講義スケジュール		
回数	単 元	概       要	
1	第2章・血液	ガイダンス、血液総論	
2	第2章・血液	赤血球総論、赤血球の形状と数、必要成分、一生、溶血、貧血	
3	第2章・血液	白血球、血小板、血漿の成分と働き	
4	第2章・血液	止血のメカニズム、血液型	
5	第2章・循環	循環総論、心臓の構造と働き、刺激伝道系	
6	第2章・循環	心周期、心音、心電図	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第2章・循環	血管系、血圧	
9	第2章・循環	循環調節、リンパ系	
10	第3章・呼吸	呼吸総論、換気とガス交換、ガス運搬	
11	第3章・呼吸	呼吸運動	
12	第3章・呼吸	呼吸調節、呼吸の異常	
13	第4章・消化と吸収	消化と吸収総論、各栄養素の消化と吸収、消化酵素	
14	第4章・消化と吸収	消化管の運動、消化液、吸収、摂食の調節	
3	統合教育科目I	総復習	
15	試験	期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	経絡経穴概論 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	経絡・経穴の概念を理解し、経脈の流注、主要な経穴の名称、部位および主治を覚える。 経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	東洋医学特有の用語や漢字に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学 [経穴篇] 』 天津中医薬大学,学校法人後藤学園(編) 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王暁明(著) 医歯薬出版

回数	単 元	概       要	
1		東洋医学の概要	
2		陰陽、臓腑、気血、経絡、経穴の概要	
3		経絡の概要	
4	第1章 経脈経穴の基礎	正経十二経脈の概要、流注等	
5		正経十二経脈の概要、流注等	
6		奇経八脈の概要、流注等	
7		経別、絡脈、経筋、皮部の概略	
1	統合教育科目I	総復習	
8		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
9		要穴(背部兪穴、募穴)の概略、部位・取り方、主治	
10		要穴(四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴)の概略、部位・取り方、主治	
11	第1章 経脈経穴の基礎	要穴(原穴、郄穴、絡穴)の概略、部位・取り方、主治	
12	第2章 経脈・経穴	要穴(原穴・郄穴・絡穴)の概略、部位・取り方、主治	
13		要穴(五兪穴)の概略、部位・取り方、主治	
14		要穴(五兪穴)の概略、部位・取り方、主治	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	経絡経穴概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	石丸幸宏
7. 授業形式	講義・講義内小テスト・学生間情報共有で学生主体の授業形式で行う。
8. 授業の目標	東洋医学特有の臓腑考え方の概要を知り、経絡との繋がりを理解し臨床に使える 知識を養う。、
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10.受講上の注意	毎回の講義の中でしっかりと理解することを目標に、クラス全体で疑問点を無く すために積極的に話す、聞く、わからないものは質問する、わかっているものは 教える、など学生間で積極的に学習すること。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』『新版 経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社 『針灸学 [経穴編]』 日中共同編集 東洋学術出版社
1 2. 副読本	
13. 推薦参考図書	『東洋医学の教科書』平馬直樹 他 監修 ナツメ社

回数	単 元	概    要	
1	概論	陰陽・臓腑・経絡経穴などの概要を知る。	
2	経絡経穴について	教科書:新版 東洋医学概論p150~157まで 新版 経絡経穴概論p2~8まで	
3		経絡がつながる臓腑の概要を知る。五臓六腑の全体的な概要。	
4 5	臓腑について	五臓について	
6 7		六腑について	
1	統合教育科目I	総復習	
8		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
9	経絡流注について	経絡流注の概要を知る。	
11	経絡流注 各論	手の三陰経	
12		手の三陽経	
13		足の三陰経	
14		足の三陽経	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	基礎実技 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等20年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義と実技
8. 授業の目標	鍼治療の基本的な知識を身につけ、人体の手足に鍼が目的の深さ角度で刺入できるようにする。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業時間内では、練習する時間が限られるので自宅でも練習するように。
11. 教科書	
12. 副読本	鍼灸療法技術ガイドI
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要
1		鍼の基本。道具の名前、治療の一連の動作。鍼柄だけにして片手挿管の練習
2		始めの15分片手挿管の練習、練習器に寸6-3を刺入する。押手、弾入、刺手の一連の動作を行う。
3		始めの15分片手挿管の練習、練習器の2、3番目と3,4番目の間に紙を入れ、硬い物を貫く感覚を知る。寸6-3使用、90度 片手挿管の練習しながら、講義形式で授業を受ける。(器具の滅菌、消毒法)
4		始めの15分片手挿管の練習、練習器の2,3と4,5番目の間に紙を入れて貫く感覚を知る。寸6-3と1を使用、90度 片手挿管の練習をしながら講義を受ける。(手洗い手指消毒、施術部位の消毒法)
5		初めの15分片手挿管の練習。自分の下腿陽経、陰経に寸6-3、1を刺入、20mm、90度を目標とする。 片手挿管の練習をしながら講義を受ける。(鍼灸の事故)
6		初めの15分片手挿管の練習。自分の大腿陽経、陰経に寸6-3、1を刺入、20 mm、90度を目標とする。
7		初めの15分片手挿管の練習。自分の下腿・大腿陽経、陰経に寸6-3、1を刺入、 20mm、90度を目標とする。 片手挿管の練習をしながら講義を受ける。
8		中間試験
9		人の下腿左右陽経・陰経に寸6-3を刺入、20mm、90度を目標とする。
10		人の下腿左右陽経・陰経に寸6-1を刺入、20mm、90度を目標とする。
11		人の大腿左右陽経・陰経に寸6-3を刺入、20mm、90度を目標とする。
12		人の大腿左右陽経・陰経に寸6-1を刺入、20mm、90度を目標とする。
13		仰臥位になり、前腕陽経に寸3-1を刺入、15mm、90度を目標とする。
14		仰臥位になり、前腕陰経に寸3-1を刺入、10mm、90度を目標とする。
15		下腿後面左右に刺入、寸6-1、深さ30mm、90度
16		大腿後面左右に刺入、寸6-1、深さ30mm、90度
17		定期試験の予行練習
18		期末試験
19		下腿陽経左右に刺入、寸6-1深さ20mm、45度
20		下腿陰経左右に刺入、寸6-1深さ20mm、45度

1. 科目名	基礎実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等3年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	お灸についての知識と技能の取得
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	KCや実技道具を忘れないでください。
11. 教科書	配布資料
12. 副読本	はり灸理論、鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール		
回数	単	元	概    要
1	お灸の体験		お灸とは何なのか、どのような効果があるのかを学ぶ。 お灸の種類や方法、手技などについて知識を取得する。
2	お灸の基礎		艾・艾の生成について。知熱灸の実技。
3	お灸の基礎		灸法の種類について。知熱灸の実技。
4	お灸の基礎		灸法の種類について。知熱灸の実技。
5	お灸の基礎		灸の手技について。知熱灸の実技。
6	お灸の基礎		線香について。知熱灸の実技。
7	お灸の基礎		お灸の効果について。知熱灸の実技。
8	中間試験		中間試験
9	お灸の基礎		お灸の刺激量について。知熱灸の実技。
10	お灸の基礎		熱量の調節について。知熱灸の実技。
11	お灸の基礎		熱の受容器について。知熱灸の実技。
12	お灸の基礎		火傷について。知熱灸の実技。
13	お灸の基礎		火傷について。知熱灸の実技。
14	お灸の基礎		火傷の処置について。知熱灸の実技。
15	お灸の基礎		お灸の過誤について。知熱灸の実技。
16	お灸の基礎		知熱灸の実技。
17	お灸の基礎		知熱灸の実技。
18	期末試験		期末試験
19	お灸の基礎		自分への施灸
20	お灸の基礎		自分への施灸

1. 科目名	総合実技 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	経脈の流注、経穴の名称および部位を覚え、体表面から実際の経穴を取穴できるようにする。 経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	実技室を使用する際はKCを着用する。また、適宜、ショートパンツ等を用意する。 東洋医学特有の用語や漢字に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王暁明(著) 医歯薬出版 『ツボ単』 形井秀一,髙橋研一(監) NTS

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	第1章 経脈経穴の基礎	経穴の概要、取穴実技の概要	
2	第1章 経脈経穴の基礎	骨度法、体表指標	
3	第2章 経脈・経穴	骨度法、体表指標	
4		経脈の流注、経穴名、部位、取穴(督脈)	
5	<b>英0</b>	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(督脈)	
6	第2章 経脈・経穴 	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(任脈)	
7		経脈の流注、経穴名、部位、取穴(任脈)	
8		中間試験	
9		要穴(募穴)の経穴名、部位、取穴	
10		要穴(背部兪穴)の経穴名、部位、取穴	
11		要穴(四総穴・八脈交会穴・下合穴)の経穴名、部位、取穴	
12	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手太陰肺経)	
13	第4年   柱脈・柱八	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手陽明大腸経)	
14		経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手少陰心経)	
15		経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手太陽小腸経)	
16		経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手厥陰心包経)	
17		期末試験(取穴実技)	
18		期末試験(筆記)	
19	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手少陽三焦経)	
20	第2早 程脈・程八	経脈の流注、経穴名、部位、取穴(手少陽三焦経)	

1. 科目名	総合領域 I ※実務経験のある教員の授業科目 (治療院等1年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	あはき師の歴史を知り、現代の課題を理解する。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『医療概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社 『新版 東洋医学概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『針灸の歴史 悠久の東洋医術』あじあブックス大修館書店
13. 推薦参考図書	『日本医療史』新村拓 吉川弘文館

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概        要	
1	あはき史について	医学史の意義 はり・きゅうの起源	
2	古代の医学と医療	東洋の医学と医療	
3	古代の医学と医療	東洋の医学と医療	
4	中世の医学と医療	東洋の医学と医療	
5	中世の医学と医療	東洋の医学と医療	
6	中世の医学と医療	東洋の医学と医療	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	近世の医学と医療	東洋の医学と医療	
9	近世の医学と医療	東洋の医学と医療	
10	近代の医学と医療	東洋の医学と医療	
11	近代の医学と医療	東洋の医学と医療	
12	近代の医学と医療	東洋の医学と医療	
13	現代の医学と医療	現代医学の課題 西欧近代医学	
14	現代の医学と医療	現代医学の課題 東洋医学 現代のはり師きゅう師の現状	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	総合領域 II ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸接骨院3年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	木野 かおり
7. 授業形式	演習
8. 授業の目標	経穴の取穴に必要な人体の骨・筋の位置や名称を把握することを目的とする。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	色鉛筆を用意してください
1 1. 教科書	『解剖学』社団法人 東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社 『ネッター解剖学アトラス』 南江堂
1 2. 副読本	
13. 推薦参考図書	『ネッター解剖学カラーリングテキスト』 南江堂

回数	単元	概 要	
1	—	全身の骨名	
2		キャッド では、 ・ 大柱・ 胸郭の骨	
3	上肢	上肢の骨	
-	上版		
4		上肢の筋①	
5		上肢の筋②	
6		グループワーク	
7		グループワーク	
8		グループワーク	
1	統合教育科目I	総復習	
9		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
10	下肢	下肢の骨	
11		下肢の筋①	
12		下肢の筋②	
13		上肢・下肢の復習	
14		グループワーク	
3	統合教育科目I	総復習	
4	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
5	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	職業教育 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸接骨院3年勤務)
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	木野 かおり
7. 授業形式	講義 その他
8. 授業の目標	研修や学会等に取り組み、学校での交流・業界への理解を深めることを目的とする。
9. 成績評価	出席状況、課題・レポートの提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	事前の連絡をよく確認して臨んでください。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概	
1		ICT研修会	
2		講演会	
3		講演会後研修会	
4		講演会	
5		校内学術論文大会	
6		校内学術論文大会	
7		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座	
8		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座	

1.	科目名	統合教育科目I
2.	科目分類	専門分野
3.	対象学科	鍼灸科 1部
4.	対象学年・対象学期	第1学年 通年
5.	単位数	4 単位
6.	担当講師	木野かおり 他
7.	授業形式	座学
8.	授業の目標	各科目の復習と理解を深める。
9.	成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10.	受講上の注意	欠席がないよう受講してください。
11.	教科書	
1 2.	副読本	
13.	推薦参考図書	

		14. 講義スケジュール
回数	単 元	概 要
1		
2		
3		
5		総復習
6		NO IX E
7		
8		
9	•	
10	中間試験	第1回校內模試
11		自己採点・解説作成
12		
13		
14		
15		
16		授業と振り返り授業
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		総復習
26		
27		
28		
29		
30		期末試験
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		振り返り授業
38		
39		
40		
41		
42		
43		
43		

1. 科目名	コミュニケーション
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	1年生の「健康科学」で学習したことを基礎として、スポーツをコミュニケーションツールの1つとして活用する方策を模索し、具体的な方法について学生が実践できる力を身につけます。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行ってください。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『コミュニケーション』中谷敏昭編 化学同人、『新・スポーツ医学』藤本繁夫 ら編 嵯峨野書院
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト:共通科目 I ・Ⅲ

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	第1回	ガイダンス、スポーツコミュニケーションとは	
2	第2回	指導者の仕事	
3	第3回	年齢に応じた指導	
4	第4回	実際の指導方法の紹介1:ストレッチ	
5	第5回	指導者と子どもをつなぐ話の聴き方	
6	第6回	指導者と子どもをつなぐ話し方	
1	統合教育科目I	総復習	
7	第7回	中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第8回	効果的なほめ方	
9	第9回	実際の指導方法の紹介2:自重トレーニング	
10	第10回	学生発表、効果的な叱り方	
11	第11回	学生発表、目標達成シート1	
12	第12回	学生発表、目標達成シート2	
13	第13回	学生発表、やる気の育て方 (基礎)	
14	第14回	学生発表、やる気の育て方 (応用)	
15	第15回	期末試験	
3	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	解剖学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	星伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	第1学年で学習した解剖学(特に運動器系と神経系)、生理学で学習した人体の機能を念頭に置いて、人体の構造と機能の関係性を整理しつつ、理解を深める。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかけない事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲兒 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

	4 4 3# ** ~ 1.3° 3		
	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概        要	
1		1年次の総括および2年次の単位取得に向けての概要説明	
2	第6章 生殖器系	男性生殖器の詳細構造	
3	第6章 生殖器系	女性生殖器の詳細構造	
4	第6章 生殖器系	生殖器の相同器官	
5	第7章 内分泌器系	下垂体・松果体・甲状腺の詳細構造と分泌物	
6	第7章 内分泌器系	上皮小体・副腎・膵島の詳細構造と分泌物	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第8章 神経系	神経組織の構成確認	
9	第8章 神経系	脊髄の構造の確認と各分節の構造における特徴	
10	第8章 神経系	脳の構造の確認と各部位における核・白質の特徴	
11	第8章 神経系	末梢神経の構成とそれぞれの走行	
12	第8章 神経系	伝導路	
13	第9章 感覚器系	視覚・聴覚・平衡覚の受容器の構造	
14	第9章 感覚器系	味覚・嗅覚・一般感覚受容器の構造と感覚伝導路	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	臨床医学総論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	適切な施術に向けて必要な医療面接技法や診察法、症候にかかわる知識を習得することを目的とする。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『臨床医学総論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『診察と手技がみえる vol.1 第2版』メディック メディア 『臨床医学各論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール	
回数	単 元	概     要
1	第1章 診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得 関連用語の理解 診察法の種類 診察の順序 記録の 目的と内容
2	第2章 診察の方法	医療面接 (病歴聴取)
3		視診 触診 打診 聴診 測定法
4		神経系の診察
5	第3章 生命徴候 (バイ タルサイン) の診察	体温 脈拍 血圧 呼吸
6	第4章 全身の診察	顔貌、顔色 精神状態 言語 身体測定 体型・体格
7		栄養状態 姿勢と体位 歩行
8		中間試験
9	第4章 全身の診察	皮膚、粘膜、皮下組織 爪の状態 リンパ節 その他の一般状態
10	第5章 局所の診察	頭部 顔面 眼 鼻
11		耳 口腔 頸部
12		胸部 乳房
13		肺・胸膜
14		心臓 腹部
1	統合教育科目I	総復習
2	統合教育科目I	総復習
3	統合教育科目I	総復習
15		期末試験

1. 科目名	臨床医学各論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	木野 かおり
7. 授業形式	配布プリント、Power Point等を使用します。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について 理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指します。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を一度読んでおくようにしてください。配布したプリント等の 再配布はしません。なくさないようにしてください。
1 1. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
1 2. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『ダイナミックメディシン』西村書店 『病気が見える』シリーズ メディックメディア出版

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	第1章 感染症	総論、細菌感染症	
2	第1章 感染症	細菌感染症、ウイルス感染症	
3	第1章 感染症	ウイルス感染症、性感染症	
4	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃·十二指腸疾患	
5	第2章 消化器疾患	胃·十二指腸疾患、腸疾患	
6	第2章 消化器疾患	腸疾患、腹膜疾患	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	第3章 肝胆膵疾患	肝臓疾患	
9	第3章 肝胆膵疾患	胆道疾患、膵臓疾患	
10	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患	
11	第4章 呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患	
12	第4章 呼吸器疾患 第5章 腎·尿路疾患	その他の呼吸器疾患 原発性糸球体腎炎	
13	第5章 腎・尿路疾患	原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症	
14	第5章 腎·尿路疾患	感染症、腫瘍性疾患、結石、前立腺疾患	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	衛生学·公衆衛生学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	国分 美和子
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に 「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主 的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版 (医歯薬出版株式会社)
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 20020/2021 (厚生統計協会)

回数	単 元	概	
1	第1章 衛生学の意義	概論。衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の学問領域と学習する 意義について把握する。	
3	第2章 健康	健康な状態から発病、発病後までの経過を知ることにより、その段階に合わせた予防の基本的な考え方や手法を理解する。さらに、健康管理の重要な手段である集団検診、精密検査の意味について、国民の健康維持のための衛生行政や医療制度の現状についても把握する。	
4 5 6	第12章 保健統計	国勢調査,人口動態調査などの調査概要、その調査結果から得られる健康指標 の意味および現状について理解する。	
1	統合教育科目I	総復習	
7		前期中間試験および解説	
2	統合教育科目I	第8章 成人・高齢者保健	
8	第8章 成人・高齢者保 健	人口の高齢化に伴い,成人・高齢者の生活習慣病の発症が医療費増大や介護など社会問題の原因となっている。そこで,生活習慣病の現状と予防,さらに老後のQOLを向上させるための高齢者保健・福祉対策について把握する。合わせて医療保険制度や介護保険制度についても把握する。	
9	第7章 母子保健	乳児・幼児における健康状況は母体の健康状態が深く影響する。そこで,母子の健康指標と現状,母子保健対策や母子保健法について理解する。	
11 12	第5章 産業保健	労働者は特殊な作業環境に置かれる場合も少なくない。その作業環境の影響による種々の職業病罹患の危険性にさらされている。そこで,職業病の概略と現状,労働安全衛生法,産業保健対策について把握する。	
13 14	第6章 精神保健	精神障害者を社会から隔離する傾向にあったが、人権を尊重し、社会復帰できる体制へと方向転換されてきた。精神障害(精神の病気)の概略と現状、精神保健・福祉対策について把握する。	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	東洋医学概論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	①プリント・教科書・PCとプロジェクターを使用した説明。 ②授業内確認試験 ③学生間での学習内容の共有 ④最終授業内小テスト の順で授業を行う。
8. 授業の目標	東洋医学の基礎となる臓腑についての基礎
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	その日の授業で説明を受けた内容を確認試験と学生間での学習共有によって最終授業内小テストで毎回全員が満点をとれるように学生間で疑問点の解消や、学習支援が必要な学生に対して協力してクラス全体で学力向上する雰囲気で積極的に話す、聞く、質問する、疑問をその場で解消するように心がける事。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『東洋医学臨床論〈はりきゅう篇〉』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本 社
13. 推薦参考図書	『針灸学[基礎篇]』天津中医薬学大学 学校法人後藤学園編 東洋医学出版社

	14. 講義スケジュール			
回数		単	元	概    要
1	2章2節	蔵象	概論	蔵象とは何かを知る
2	2章2節	蔵象		肝・胆の生理と病理
3	2章2節	蔵象		心・小腸の生理と病理
4	2章2節	蔵象		脾・胃の生理と病理
5	2章2節	蔵象		肺・大腸の生理と病理
6	2章2節	蔵象		腎・膀胱の生理と病理
7	2章4節	病因症	<b></b> 持機	病因(外感病因・内傷病因・その他)について
1	統合教育	育科目]	Į.	総復習
8				中間試験
2	統合教育	育科目]	[	試験結果と振り返り授業
9	2章4節	病因症	<b></b> 持機	病機とは何か
10	2章2節	蔵象		肝・胆の病証
11	2章2節	蔵象		心・小腸の病証
12	2章2節	蔵象		脾・胃の病証
13	2章2節	蔵象		肺・大腸の病証
14	2章2節	蔵象		臨・膀胱の病証
3	統合教育	育科目]	[	総復習
15				期末試験
4	統合教育	育科目]	[	振り返り授業

1. 科目名	東洋医学臨床 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等20年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	東洋医学的な診断法と西洋医学的な診断法を理解する。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	東洋医学臨床論の教科書だけに頼らない様にすること。
11. 教科書	東洋医学臨床論
12. 副読本	東洋医学概論
13. 推薦参考図書	

	14.講義スケジュール		
回数	単 元	概     要	
1	第1章 治療総論	東洋医学臨床論とはどんな科目か。1. 現代医学的な考え方 2. 東洋医学的な考え方	
2	第2章 治療各論	1) 頭痛 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
3		2) 顔面痛 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
4		3) 顔面麻痺 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
5		5) 眼精疲労 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
6		6) 鼻閉・鼻汁 7) 脱毛症(1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
1	統合教育科目I	総復習	
7		中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8		8) めまい 9) 耳鳴りと難聴 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
9		10)咳嗽 11)喘息 (1)現代医学的な考え方 (2)東洋医学的な考え方	
10		12)胸痛 (1)現代医学的な考え方 (2)東洋医学的な考え方	
11		13)腹痛 (1)現代医学的な考え方 (2)東洋医学的な考え方	
12		14) 悪心と嘔吐 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
13		15) 便秘と下痢 (1) 現代医学的な考え方 (2) 東洋医学的な考え方	
14		16)月経異常 (1)現代医学的な考え方 (2)東洋医学的な考え方	
15		期末試験	
3	統合教育科目I	総復習	

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等3年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義、グループワーク
8. 授業の目標	東洋医学の診察法と専門用語の習得
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	教科書や配布資料を無くさない。
11. 教科書	東洋医学概論
12. 副読本	針灸学(基礎編)、臨床中医診断学
13. 推薦参考図書	針灸学(基礎編)、臨床中医診断学、鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概       要	
1	切診、証の決め方	脈診、腹診の診察法、証の立て方について理解をする。	
2	望診、切診、証の決め方	言葉の意味を理解し、証を立てることについて理解をする。	
3	望診、切診、証の決め方	言葉の意味を理解し、証を立てることについて理解をする。	
4	聞診、切診	言葉の意味を理解し、証を立てることについて理解をする。	
5	聞診、切診	言葉の意味を理解し、証を立てることについて理解をする。	
6	問診、切診	言葉の意味を理解し、証を立てることについて理解をする。	
1	統合教育科目I	総復習	
7	中間試験	中間試験	
2	統合教育科目I	試験結果と振り返り授業	
8	弁証論治	証の決め方を考える	
9	弁証論治の進め方と証の決定	四診法から得た情報を基に証を決定する。	
10	弁証論治の進め方と証の決定	四診法から得た情報を基に証を決定する。	
11	弁証論治の進め方と証の決定	四診法から得た情報を基に証を決定する。	
12	治療方針・選穴方法	証の決定し、治療方針・選穴までを考える。	
13	治療方針・選穴方法	証の決定し、治療方針・選穴までを考える。	
14	古代刺法	古代の刺法を学ぶ。	
3	統合教育科目I	総復習	
15		期末試験	
4	統合教育科目I	振り返り授業	

1. 科目名	応用実技 I ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等20年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	実 技
8. 授業の目標	治療により体に与える影響を考える。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点(小テストや出席、授業態度等)を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	聞くだけでなく考える様に心がけること。
11. 教科書	東洋医学臨床論
12. 副読本	経絡経穴概論、鍼灸療法技術ガイドI
13. 推薦参考図書	

1 4. 講義スケジュール		
回数	単 元	概
1		治療とは、「身体にどんな変化をさせたいか」を考える。筋を弛める。血行をよくする。神経を興奮させる等。
2		頭痛に対する治療 天柱・風池・完骨 (大後頭神経C2の圧迫を弛める)
3		顔面痛、顔面麻痺に対する治療 聴宮~翳風パルス、魚腰・四白・オトガイ 三叉神 経の出口、顔面神経を狙う。
4		美容の鍼、顔面痛を考え、顔に鍼をする。 (魚腰、四白、大迎)
5		眼精疲労に対する治療。眼周囲の筋を緩め血行改善を図る 攅竹、太陽、承泣 東洋医学的診断にて眼精疲労を考える。
6		鼻閉・鼻汁に対する治療。脱毛に対する治療 東洋医学的診断にて肺気虚による場合、肺の機能向上を考える。手太陰肺経、足太陰 脾経、手陽明大腸経を考える。脱毛は頭皮の血行改善、頭皮の緩みを促す様にする。
7		めまい・耳鳴りと難聴に対する治療。翳風一聴宮へのパルスで内耳への血行改善、渡 洋医学的には腎、肝とのつながりで考える。
8		中間試験
9		咳嗽、喘息の治療 咳により肩甲骨間の筋のこりや呼吸補助筋を緩め又、気管の炎症を抑える目的で喉頭 隆起周囲の血流改善を考える。定喘、天突、気管周囲、膏肓
10		胸痛の治療 肋間神経痛の場合、脊柱点、腋窩点、胸骨点と圧痛点を中心に神経の異常興奮を抑える目的でパルスする。今回はパルスせず肋骨に鍼を当てる手技をして、治療点に正確に刺入する様にした。右11肋骨使用
11		歯科とのコラボ授業
12		腹部の治療、腹部の散鍼による浅い腹部の違和感をとる。 脾胃虚寒による治療。
13		悪心・嘔吐に対する治療。①脾胃虚弱に対する治療、 背部からのアプローチで腹部に影響するように考える。ひびきを指標にする。
14		便秘と下痢に対する治療法。骨盤を狙う治療(上髎、次髎、中髎)、胃腸の熱による 便秘に対する治療。
15		月経異常の治療。 うつ熱による経早の治療法、寒邪による治療法。
16		期末試験のシミュレーション 病名を聞いて治療穴を2穴選択し、その理由を言う。
17		期末試験
18		期末試験解説、西洋医学的治療法の考え方。治療方針と治療法。
19		西洋医学的治療法の考え方。総合。
20		東洋医学的治療法の考え方。治療方針と治療法。

1. 科目名	応用実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等4年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	身体診察、テスト法を理解し、実施できる。また、疾病の成り立ちについて理解 し、適切な身体診察、テスト法、治療法を行える。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	指示以外のことは実施しない。
11. 教科書	『診察と手技がみえる 1』メディックメディア 『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
1 2. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

回数	単 元	概	
1	医療面接	医療面接とは	
2	医療面接	医療面接の実際	
3	身体診察法	バイタルサイン	
4	身体診察法	バイタルサイン、血圧測定	
5	身体診察法	神経の伝導路、神経診察法(表在感覚、深部感覚)	
6	身体診察法	神経系診察法(複合感覚、反射検査、自律神経反射)	
7	身体診察法	神経系診察法(病的反射、脳神経系の診察法)	
8	身体診察法	神経系診察法(病的反射、脳神経系の診察法)	
9		中間試験	
10	身体診察法	神経系診察法(髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT)	
11	身体診察法	神経系診察法(髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT)	
12	徒手検査法	肩関節の徒手検査法	
13	肩関節疾患	五十肩の病態把握・診断方法	
14	肩関節疾患	五十肩の治療法	
15	肩関節疾患	野球肩の病態把握・診断方法	
16	肩関節疾患	野球肩の治療法	
17	徒手検査法	肘部・手関節の徒手検査法	
18		期末試験	
19	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎の病態把握・診断方法	
20	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎の治療法	

1. 科目名	応用実技IV ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等3年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	人体の構造を学習し、テーピング・ストレッチ、鍼灸施術などの技術を習得す る。
9. 成績評価	中間試験に期末試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	使用する用具や着替えを忘れない事。
11. 教科書	解剖学、基礎から学ぶスポーツテーピング、アスリートケアマニュアル等
12. 副読本	基礎運動学
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール				
回数	単 元	概			
1	上・下肢の筋と外傷	筋について基礎を深め、外傷について学習する。			
2	下肢 (基礎から施術)	下腿・足関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
3	下肢 (基礎から施術)	下腿・足関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
4	下肢 (基礎から施術)	下腿・足関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
5	下肢 (基礎から施術)	足関節・下腿の評価と鍼灸施術			
6	下肢 (基礎から施術)	膝・股関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
7	下肢 (基礎から施術)	膝・股関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
8	下肢 (基礎から施術)	膝・股関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
9	中間試験	中間試験			
10	下肢 (基礎から施術)	膝関節・下腿の評価と鍼灸施術			
11	上肢 (基礎から施術)	上肢の外傷について学習する。			
12	上肢 (基礎から施術)	頸・肩関節関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
13	上肢 (基礎から施術)	頸・肩関節関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
14	上肢 (基礎から施術)	頸・肩関節関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
15	上肢 (基礎から施術)	頸・肩関節の評価と鍼灸施術			
16	上肢 (基礎から施術)	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
17	上肢 (基礎から施術)	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等			
18	期末試験	期末試験			
19	上肢 (基礎から施術)	肘関節・手指の評価と鍼灸施術			
20	上肢 (基礎から施術)	肘関節・手指の評価と鍼灸施術			

1. 科目名	臨床実習Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	学校付属の介護施設や外部のスポーツ施設等での臨床実習を原則行う。
8. 授業の目標	外部での臨床実習の中で臨床力を養う。
9. 成績評価	課題などの提出物の提出状況、実習態度等で総合的に評価する。
10. 受講上の注意	体調管理をしっかり行い、予定している実習を欠席しないように心がける。 実習でお世話になる施設の方々に失礼の内容に礼節を重んじる事。 基本的に欠席をしない事。
11. 教科書	
1 2. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール				
回数	単 元		概	要	
1		①ガイダンス 外部実習についての基:	本事項の説明		
2			1 7 7 1 1 1 2 7 3		
3		②介護実習 介護実習事前ガイダン	ス		
4		車イス操作 実習 高齢者体験 実習			
5		歩行介助 実習	1171		
6		介護実習 振り返り実 介護実習 復習実習	省 …等		
7		③外部治療院見学実習			
8		外部治療院見学実習			
9		④外部実習 セカサボ 東並登習			
10		担架救護 事前学習 外部スポーツ大会救護	事前学習		
11		Jリーグ担架救護実習 外部スポーツ大会の救	護実習 …等		
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

1. 科目名	臨床実習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	治療院見学実習を中心にそのための準備実習を基本的に実技授業で行う。
8. 授業の目標	治療院見学実習において治療院業務を円滑に行えるようになる。また、指導教員の治療をベッドサイドで見学し、問診などの治療方針の立てるスキルや治療スキルについて学び、臨床力を養う。
9. 成績評価	実習態度・提出分の提出状況を中心に評価する。
10. 受講上の注意	やむを得ず欠席する場合は事前に学校などに連絡をすること。治療院実習では、実習 に適した身だしなみ(服装・髪型・化粧など)で臨むこと。あいさつを丁寧にかつ相手 にしっかりと伝わるようにすること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール			
回数	単	元	概	
1			臨床実習Ⅲの中で行う事。	
2			①治療院実習事前実習	
3			・治療院見学実習の事前ガイダンス ・臨床実習 実技試験に向けた実技練習実習 等	
4			②症例発表会	
5			・症例発表会に参加し、臨床力を養う。	
6			③臨床実習 実技試験 ・3年次の治療体験実習に向けた実技能力を試験する。	
7				
8			④治療院見学実習 ・治療院見学実習	
9				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

1. 科目名	職業教育 II ※実務経験のある教員の授業科目 (治療院等1年勤務)
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	千木良美歩、ほか
7. 授業形式	講義・演習 その他
8. 授業の目標	学会や研修に取り組み、学校での交流・業界への理解を深めることを目的とする。
9. 成績評価	出席及び課題・レポートの提出などで評価を行う。
10. 受講上の注意	事前の連絡をよく確認し、準備をして臨むように。
11. 教科書	必要に応じで指示します。
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール			
回数	単 元	概     要		
1	7月7日(火)	卒業生講話		
2	10月	卒業生講話		
3	1 1 月	校内学術論文大会		
4		校内学術論文大会		
5	1月24日(日)	全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座		
6		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座		
7	2月27日 (土)	特別講演		
8		特別講演		

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	千木良美歩、ほか
7. 授業形式	座学及び演習
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深める
9. 成績評価	中間試験に定期試験の結果に平常点 (小テストや出席、授業態度等) を考慮して評価する。
10. 受講上の注意	欠席しないように積極的に受講して下さい
1 1. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール			
回数	単 元	概     要		
1		第1回校内模試		
2		模試の復習・解説づくり		
3		総復習		
4		総復習		
5		総復習		
6		総復習		
7		総復習		
8		総復習		
9		総復習		
10	中間試験	第2回校内模試		
11		授業と振り返り授業		
12		授業と振り返り授業		
13		授業と振り返り授業		
14		授業と振り返り授業		
15		授業と振り返り授業		
16		授業と振り返り授業		
17		授業と振り返り授業		
18		授業と振り返り授業		
19		総復習		
20		総復習		
21		総復習		
22		総復習		
23		総復習		
24		総復習		
25		前期期末試験		
26		振り返り授業		
27		振り返り授業		
28		振り返り授業		
29		振り返り授業		
30		振り返り授業		
31		振り返り授業		

1. 科目名	解剖学IV
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	星伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義、および必要に応じて模試問題等の解説
8. 授業の目標	これまでに得た知識の整理をし、苦手範囲抽出と更なる人体構造の理解を目指す。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に講義範囲を復習し、疑問点をある程度まとめておく事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 讓兒 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

	14. 講義スケジュール			
回数	単 元	概	要	
1		解剖学領域の国家試験の傾向。	· 対策概要	
2	第1章 人体の構成	国家試験の傾向と対策(組織学	学)	
3	第6章 生殖器系	国家試験の傾向と対策(発生学	学)	
4	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策(運動	器一骨・関節一)	
5	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策(運動	器-筋・運動様式-)	
6	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策(循環器	器-心臓・動脈-)	
7	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策(循環器	器一静脈・胎児循環一)	
8	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策(循環器	器-リンパ系-)	
9	第3章 呼吸器系	国家試験の傾向と対策(呼吸器	器)	
10	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策(消化器	器一消化管一)	
11	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策(消化器	器-消化腺-)	
12	第5・6章 泌尿・生殖器系	国家試験の傾向と対策(泌尿器	器・生殖器)	
13	第8章 神経系	国家試験の傾向と対策(神経)		
14	第9章 感覚器系	国家試験の傾向と対策(感覚	器)	
15		期末試験		

1. 科目名	臨床医学各論Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	木野 かおり
7. 授業形式	配布プリント、Power Point等を使用します。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指します。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を一度読んでおくようにしてください。配布したプリント等の再 配布はしません。なくさないようにしてください。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『ダイナミックメディシン』西村書店、 『病気が見えるシリーズ』メディックメディア出版

	14.講義スケジュール		
回数	単 元	概       要	
1	第10章 血液・造血器疾患	白血球疾患、リンパ網内系疾患、出血性素因	
2	第11章 神経疾患	脳血管疾患	
3	第11章 神経疾患	脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍	
4	第11章 神経疾患	脳・脊髄腫瘍、基底核変性疾患	
5	第11章 神経疾患	基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症性疾患	
6	第11章 神経疾患	認知症性疾患、筋疾患	
7	第11章 神経疾患	運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患	
8	第11章 神経疾患 第12章 リウマチ性疾患・膠原病	神経痛、機能性疾患、リウマチ性疾患	
9	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病	
10	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 第13章 その他の領域	膠原病、小児科疾患、一般外科	
11	第13章 その他の領域	一般外科、麻酔科	
12	第13章 その他の領域	婦人科疾患、皮膚科疾患	
13	第14章 その他の領域	眼科疾患、耳鼻科疾患	
14	第15章 その他の領域	精神科疾患、心療内科	
15		期末試験	

1. 科目名	リハビリテーション医学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	鍼灸師としてのリハビリテーションを理解させる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	積極的な参加を希望します。
11. 教科書	リハビリテーション医学 第4版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	A. 脳卒中のリハビリテーション	1.脳卒中とは 2. 評価3. 急性期のリハビリテーション	
2	"	4. 回復期(急性期後)のリハビリテーション 5. 言語治療	
3	"	6. リスク管理~8. 脳卒中リハビリテーションのゴール	
4	B. 脊髄損傷のリハビリテーション	1. 脊髄損傷とは 2. 脊髄損傷による機能障害	
5	II.	3. 急性期のリハビリテーション~6. ケアとリスク管理	
6	C. 切断のリハビリテーション	1. 切断の原因と分類~5. アフターケア	
7	D. 小児のリハビリテーション	2. 脳性麻痺のリハビリテーションの特徴	
8	E. 骨関節疾患のリハビリテーション	1. 五十肩~4. 変形性膝関節症	
9	JJ	5. 変形性股関節症~7. スポーツ障害	
10	F. 関節リウマチのリハビリテーション	1. 関節リウマチとは	
11	G. 末梢神経障害のリハビリテーション	1. 末梢神経障害とは	
12	H. パーキンソン病のリハビリテーション	1) パーキンソン病とは	
13	I. 呼吸器疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの意義	
14	J. 心疾患のリハビリテーション	1) 心疾患のリハビリテーションとは	
15		期末試験	

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	国分 美和子
7. 授業形式	教科書に従い作成した配布資料をプロジェクター映写して講義を行う。同時に 「重要項目」を講義の進行状況に従って学生にまとめさせる。
8. 授業の目標	基本的な内容は全員が理解把握できるようにし、詳細な事項については、自主 的に学習できる手段を与える講義になるよう努める。また、国家試験を視野に国 家試験形式の問題に対応できるようにする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	講義中のノート、配布資料、重要項目は学生自身が工夫し整理整頓して保管すること。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版 (医歯薬出版株式会社)
12. 副読本	なし
13. 推薦参考図書	国民衛生の動向 2020/2021 (厚生統計協会)

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概	
1	第3章	食生活(栄養素の摂取)が健康や生活習慣病の発症にどのように関係するか, また食品中に混入する微生物や化学物質が食中毒などの疾病の原因になることを	
2	健康とライフスタイル	把握する。また、生活習慣病や食中毒の予防対策についても把握する。	
3			
4	第4章	上・下水道、衣服、居住、食品衛生、栄養、廃棄物処理など日常生活に関連する環境衛生の現状および生活環境対策について把握する。また、人の活動が環境	
5	環境と健康	に及ぼす地球環境問題、公害問題についても把握する。	
6			
7			
8	第9章	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略(感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種法)について把握す	
9	感染症とその対策	る。	
10			
11	第10章	消毒の意義、消毒の種類と方法を知ることにより、病原体や対象物を考慮し、	
12	消毒	院内感染対策など目的に合わせた消毒方法の選択を把握する。	
13	第11章	疾病は、疾病の発症に関わる要因、原因が解らなければ予防することは出来ない。 い。疫学とは、疾病の要因や原因の究明を目的とした調査研究であり、調査の基	
14		本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。	
15		期末試験	

1. 科目名	医療概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	我が国の医療制度、医療従事者に求められる倫理等を学ぶことを通じて、医療の 概要を理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
1 1. 教科書	『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール			
回数	単 元	概         要		
1		・現代の医療制度(医療経済、医療保険、介護サービス行政等)を学ぶ。		
2	第2章	・現代の医療制度(医療経済、医療保険、介護サービス行政等)を学ぶ。		
3	現代の医学と医療	・現代の医療制度(医療経済、医療保険、介護サービス行政等)を学ぶ。		
4		・現代の医療制度(医療経済、医療保険、介護サービス行政等)を学ぶ。		
5		・医療倫理を学ぶ。		
6	第3章 医療従事者の倫理	・医療倫理を学ぶ。		
7		・医療倫理を学ぶ。		
8		期末試験		

1. 科目名	関係法規
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	あはき師等に関する法令および医療に係る各種の関係法規について理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
1 1. 教科書	『関係法規 第7版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版
1 2. 副読本	
13. 推薦参考図書	『関係法規 合格プラン』 源草社

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	序論 法とは何か 第1章 あはき師等に関する法律	・法の意義、体系を学ぶ。あはき法(法制定の目的、免許等)を学ぶ。	
2		・あはき法(免許、申請等)を学ぶ。	
3	第1章 あはき師等に関する法律	・あはき法(業務、届出、設備基準等)を学ぶ。	
4		・あはき法(名称制限、広告制限、罰則等)を学ぶ。	
5		・医療に係る各種の関係法規(医事法規等)を学ぶ。	
6	第2章 関係法規	・医療に係る各種の関係法規(薬事法規、衛生関係法規等)を学ぶ。	
7		・医療に係る各種の関係法規(社会福祉関係法規、社会保険関係法規等)を学ぶ。	
8		期末試験	

1. 科目名	はりきゅう理論Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	プリント・パソコン・プロジェクター・教科書を使用して講義・学生間での授業 内容の共有・授業内容確認テスト・小テストなどを用いて行う。
8. 授業の目標	鍼や灸の治効理論や関連する学説の理解を深め、国家試験問題への対応や臨床力 を養う。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業の中で小テストを行う。それの正答率が100%になるように、学生同士で疑問点を解消する時間をとります。その時に話す、聞く、わからないことは質問し、わかるものは教え、クラス全体で理解を進めるようにしていきましょう。
11. 教科書	『はりきゅう理論』 教科書執筆小委員会著 医道の日本社
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイド』矢野 忠編集主幹 文光堂 『生理学』 公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス』 医歯薬出版株式会社 『生理学から見た鍼灸効果研究の現在』杉 晴夫著 日中出版 『やさしい自律神経生理学』鈴木 郁子 著 中外医学社

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1 2	鍼灸治効の基礎	復習(痛覚・温度覚・触圧覚・深部感覚・反射)	
3		復習(鍼鎮痛・鍼灸施術の治療的作用)	
5	鍼灸療法の一般治効理論	復習(自律神経と鍼灸療法との関係性)	
6		復習(鍼灸と免疫反応について)	
7		サイバネティクス・ホメオスターシス	
8	関連学説	ストレス学説	
9		過剰刺激症候群(レイリー現象)・圧発汗反射学説	
10		復習 (鍼の種類や形状について)	
11	鍼の基礎知識	復習 (刺鍼方法と術式・特殊鍼法について)	
12		復習 (艾について・灸術の種類について)	
13	鍼灸の臨床応用	復習 (鍼灸の刺激量や感受性・適応症や禁忌について)	
14	リスク管理	復習 (鍼灸の過誤や副作用・感染症対策について)	
15		期末試験	

1. 科目名	はりきゅう適応判断 ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等3年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義、問題演習
8. 授業の目標	東洋医学の基礎を復習する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	自分で調べる習慣をつけてください。
11. 教科書	東洋医学概論、経絡経穴、東洋医学臨床論。
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	針灸学基礎編、針灸学応用編

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概	
1	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
2	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
3	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
4	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
5	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
6	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
7	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
8	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
9	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
10	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
11	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
12	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
13	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
14	東洋医学全般	四択問題(経絡経穴、東洋医学概論、東洋医学臨床論)、グループワーク	
15		期末試験	

1. 科目名	病態生理学 ※実務経験のある教員の授業科目 (木野かおり:鍼灸接骨院3年 勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	濱津 慶子 木野かおり
7. 授業形式	講義と問題演習
8. 授業の目標	生理学的立場から病気の身体機能状態と調節機能が破綻をきたした原因をつきとめ、 診断をくだすための知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	欠席をしないこと。必ず教科書を持参すること。
11. 教科書	生理学 第3版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	特になし
13. 推薦参考図書	カラー図解 人体の正常構造と機能

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概       要	
1		炎症と自然免疫	
2	第14章 生体の防御機構	獲得免疫	
3		アレルギー 自己免疫疾患	
4		血圧の調節	
5		TTT/フェット 的句 とい	
6		体液の調節	
7		電解質の調節	
8		血糖の調節	
9	第15章 身体活動の協調	ⅢIV4号 ヘン 的句 ビロ	
10		体温の調節	
11		バイオリズム	
12		生体の適応	
13		ホメオスタシス	
14		まとめの演習	
15		期末試験	

1. 科目名	東洋医学臨床IV ※実務経験のある教員の授業科目 (治療院等1年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	国家試験に対応する経絡経穴の知識の確認と問題を理解でき、答えに導ける応用 力を身につけることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る
1 1. 教科書	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社『臨床医学総論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『東洋医学概論』『東洋医学臨床論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要
1	総論 第9章 臨床検査 法	生理学的検査および画像診断の概要
2	模試の解説	模試の解説
3	第11章 治療学 第12章 臨床心理	概要 薬物療法 食事療法 理学療法 その他の療法 患者の心理 心理学的検 査・評価方法 カウンセリング その他の療法
4		奇穴の確認
5		背部の経穴の確認
6		腹部の経穴の確認
7		骨度法の確認
8	模試の解説	模試の解説
9		肩背部の確認
10		流注・奇経のまとめ
11		四肢の経穴間骨度について
12		上肢の経穴について
13		下肢の経穴について
14	模試の解説	模試の解説 復習
15		期末試験

1. 科目名	社会鍼灸学 ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等4年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2 単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	講義、問題演習
8. 授業の目標	地域における鍼灸師の立場・役割を理解し、それに必要な知識を身につける
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	常に必要な教科書を準備し、問題に対し真摯に取り組む。また、期日までにしっかりと課題を行っていく。
11. 教科書	『社会あはき学』 医道の日本社 『臨床医学総論』・『臨床医学各論』 医歯薬出版
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概    要	
1	あはき師を取り巻く環境	医療制度と現状	
2	地域で期待されるあはき師の業務	施術所におけるあはき治療	
3	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別	
4	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別	
5	現在社会におけるあはき師の役割	感染症についての解説・問題演習	
6	現在社会におけるあはき師の役割	消化器疾患についての解説・問題演習	
7	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習	
8	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習	
9	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習	
10	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習	
11	現在社会におけるあはき師の役割	腎尿路疾患についての解説・問題演習	
12	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習	
13	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習	
14	現在社会におけるあはき師の役割	整形外科疾患についての解説・問題演習	
15		期末試験	

1. 科目名	臨床実技Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院 10年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	行田 直人
7. 授業形式	実技室にて実習を行う
8. 授業の目標	五刺、九刺、常用穴刺鍼および施灸を再理解し、各種疾患に関する鍼灸施術を実 践理解できることを目標とする
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	鍼灸具および教科書を毎回持参すること
11. 教科書	『図解鍼灸臨床手技マニュアル(第2版)』医歯薬出版株式会社 および適時配布 資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

回数	単 元	概	
1	刺鍼手技について	単刺・置鍼・回旋・雀啄術等、現行の刺鍼手技を実践し再理解する	
2	五刺について	五刺の実践を行いどの様な疾患に活用されるのかを理解する	
3	九刺について	九刺の実践を行いどの様な疾患に活用されるのかを理解する	
4	背部常用穴刺鍼	背部の刺鍼法・灸法を実践再理解し背部穴を用いる疾患を理解する	
5	腰殿部常用穴刺鍼	腰殿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し腰殿部穴を用いる疾患を理解する	
6	肩部常用穴刺鍼	肩部の刺鍼法・灸法を実践再理解し肩部穴を用いる疾患を理解する	
7	上腕部常用穴刺鍼	上腕部の刺鍼法・灸法を実践再理解し上腕部穴を用いる疾患を理解する	
8	前腕・手部常用穴刺鍼	前腕・手部の刺鍼法・灸法を実践再理解し前腕・手部穴を用いる疾患を理解する	
9	大腿部常用穴刺鍼	大腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し大腿部穴を用いる疾患を理解する	
10	膝部常用穴刺鍼	膝部の刺鍼法・灸法を実践再理解し膝部穴を用いる疾患を理解する	
11	下腿部常用穴刺鍼	下腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し下腿部穴を用いる疾患を理解する	
12	足部常用穴刺鍼	足部の刺鍼法・灸法を実践再理解し足部穴を用いる疾患を理解する	
13	胸腹部常用穴刺鍼	胸腹部の刺鍼法・灸法を実践再理解し胸腹部穴を用いる疾患を理解する	
14	頭頚・顔面部常用穴刺鍼	頭頚・顔面部の刺鍼法・灸法を実践再理解し頭頚・顔面部穴を用いる疾患を理解 する	
15	総合復習1	肩部・腰部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する	
16	総合復習 2	膝・足部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する	
17	総合復習3	内科的疾患(肺・胃腸系)に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する	
18	総合復習 4	六部定位脈診を用いた各種疾患の考え方の例を理解する	
19		期末試験	
20	総合理解	これまでの実技内容について理解を深める	

1. 科目名	臨床実技Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目 (治療院等1年勤務)
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	良導絡の理論を知り、理論に基づき測定、診断、治療方針を立て治療することを目標と する。美容鍼灸の基本手技を学び実施できるようになることを目的とする。
9. 成績評価	単元ごとの試験と期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	5分の4以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『良導絡 自律神経調整療法 基礎編』日本良導絡自律神経学会 学術部篇
12. 副読本	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社 『よくわかる美容鍼灸』上田隆勇著 三和書籍
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概
1	良導絡自律神経調整療法	良導絡についてP2、P19 測定方法P40~P46 良導点・反応良導点P22-23 カルテへのプロットP47
2		良導絡について、経絡との相違点P24、P26 異常良導絡、生理的範囲P48,49、50
3		平均電流量についてP51,52 EAP鍼について鍼の使い方
4		興抑調整についてP60-61 良導絡症候群についてP52~59不問診
5		基本調整法についてP62-63 EAP鍼についてP64 通電について
6		直流電気鍼とはP32-35 反応良導点治療についてP6568
7		刺激についてP68-74
8		一連の治療の流れを行う
9	確認試験	良導絡自律神経調整療法の試験
10	美容鍼灸	美容鍼灸の概論 全身治療
11		各論 ほうれい線・口角下端のたるみ
12		顔は心と体を映し出す 各論 笑いじわ
13		よく見るスキントラブル1 各論 ほうれい線の上端のしわ
14		しわに対するアプローチ 各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
15		各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
16		よく見るスキントラブル2 各論 眼瞼下垂・眉間・鼻根のしわ
17		肌のトラブル 各論 前額のしわ、たるみ フェイスラインのたるみ
18		復習
19		復習
20		期末試験

1.	科目名	臨床実習IV ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院等2年勤務)				
2.	科目分類	専門分野				
3.	対象学科	鍼灸科 1部				
4.	対象学年・対象学期	第3学年・前期				
5.	単位数	1 単位				
6.	担当講師	塩野 拓人、他				
7.	授業形式	実習および症例検討				
8.	授業の目標	<ul><li>・本実習は3年間の総まとめとして、直接、外来患者に接することを通じて、授業で学習した知識、技能、態度を臨床現場で統合することを目指す。</li><li>・鍼灸臨床の知識・技術を生かして障害部位、反応点等を把握し、病態の適・不適の判断や経過・予後の状況等について附属治療院で実習経験することを目的とする。</li></ul>				
9.	成績評価	実習および症例検討によるレポートの提出等により総合的に評価する。				
10.	受講上の注意	清潔なKCあるいは白衣を着用すること。 指輪、ネックレス、マニキュア、茶髪の禁止。携帯電話の持ち込み禁止。 原則として遅刻は認めない。諸事情により欠席する場合は必ず連絡を入れること。				
1 1.	教科書	各自必要な教科書を準備すること。				
1 2.	副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠 (編) 文光堂				
1 3.	推薦参考図書					

14. 講義スケジュール					
回数	単った		概	要	
1		治療院見学・補助			
2		治療院見学・補助			
3		治療院見学・補助			
4		治療院見学・補助			
5		治療院見学・補助			
6		治療院見学・補助			
7		治療院見学・補助			
8		治療院見学・補助			
9		治療院見学・補助			
10		治療院見学・補助			
11		治療院見学・補助			
12		治療院見学・補助			
13		治療院見学・補助			
14		治療院見学・補助			
15		治療院見学・補助			
16		治療院見学・補助			
17		治療体験シミュレー	ーション①		
18		治療体験シミュレー	ーション②		
19		治療院見学・補助、	体験患者への施療(	問診から施療、カルテ作成)	
20		治療院見学・補助、	体験患者への施療(	問診から施療、カルテ作成)	
21		治療院見学・補助、	体験患者への施療(	問診から施療、カルテ作成)	
22		治療院見学・補助、	体験患者への施療(	問診から施療、カルテ作成)	
23		カンファレンス①			
24		カンファレンス②			
25		症例発表事前準備(	D		
26		症例発表事前準備の	2)		
27		症例発表事前準備の	3)		
28		症例発表事前準備の	D		
29		症例発表①			
30		症例発表②			

1. 科目名	臨床研修 ※実務経験のある教員の授業科目 (鍼灸院2年勤務)				
2. 科目分類	応用分野				
3. 対象学科	鍼灸科 1部				
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期				
5. 単位数	1 単位				
6. 担当講師	石丸 幸宏				
7. 授業形式	台湾の中医薬大学にて講義または、臨床施設見学等				
8. 授業の目標	日本と環境の違いや中医学特有の鍼灸の治療アプローチの違いを感じる。				
9. 成績評価	出席とレポート提出によって評価する。				
10. 受講上の注意	健康に留意して礼節を大事にし、団体行動を意識して行動する。				
11. 教科書					
12. 副読本					
13. 推薦参考図書					

	14. 講義スケジュール						
回数	単 元	概    要					
1							
2							
3							
4							
5	台湾海外研修	台湾の中国医薬大学にて現地の臨床施設の見学や現地の講師による講義の聴講を					
6		行う。					
7							
8							
9							
10							

1. 科目名	統合教育科目IV-5
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	1 単位
6. 担当講師	石丸 幸宏、他
7. 授業形式	鍼灸国家試験に向けて国家試験と同様の形式の模擬試験を行う。
8. 授業の目標	国家試験合格のために、問題数や解答方法、出題傾向に慣れ、対応できるように なる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10.受講上の注意	①事前に模試の日程を確認し、事前に欠席しなければならない場合は欠席届を提出すること。 ②模擬試験当日に、欠席せざる負えなくなった場合は、試験開始時間前に鍼灸科校舎に電話をすること。
1 1. 教科書	国家試験に出題される科目すべての教科書や参考書
1 2. 副読本	
13. 推薦参考図書	

	14.講義スケジュール							
回数	単 元	Ē			概	Ī	—————————————————————————————————————	
1		第1回	校内模試	(4/7)				
2								
3		第1回	合同模試	(4/18)				
4								
5		第2回	校内模試	(5/27)				
6								
7		第2回	合同模試	(7/18)				
8								
9		第3回	校内模試	(8/26)				
10								
11		第4回	校内模試	(10/1)				
12								
13			合同模試	(10/17)				
14		後期期			<u> </u>			
15		後期期	末試験					